

## 下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議（第9回）会議録

日時：2022/10/21 19:00～20:47

場所：下諏訪総合文化センター 2階 集会室

出席者：武井委員、濱委員、坂本委員、西村委員、高木委員、吉田委員、萩原委員  
檜尾教育こども課長、岩波生涯学習係長、小口副主幹、堀内主査、原担当、  
岡田担当

欠席者：増澤委員、野村委員、川村委員

事務局：

ただいまから第9回下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を開催させていただきます。それでは本日、早速議事の方に入らせていただきたいと思います。本日の議事は1件ございます。具体的な改修箇所と内容についてということで、これから説明をさせていただきますが、まず本日の議事で行っていただきたいことなのですが、資料をご覧くださいどのような改修が必要かというところをお話しいただく形になりますけれども、皆様でまとめていただいた文化センターの運営方針では文化センターをずっと維持していくものとなりました。それに基づき、文化センターを80年から100年という形で運用をしていくのに当たって、どの工事が必要かどうかというところをまずは金額とか時期とかは抜きにして、文化センターがこれから維持をしていくために、この工事が必要かどうかというところをまずご協議をいただきます。そしてそこで必要な工事を皆さんの方でおまとめいただいた後に、では具体的に金額や時期といったところはどうしたらいいのかというような形で2段階に分けて議論の方していただければと思いますのでよろしくお願いします。それでは事務局の方からご説明申し上げます。

事務局：

それでは資料6をご覧ください。改修計画を検討するにあたり、まずこれまでの経過をおさらいしたいと思います。一つ目、町実施計画において積算した改修費用が13億570万円。令和3年度において、特定天井の解消他、保守業者の指摘事項と経年劣化の状況を見る中で必要最低限の範囲の改修を計画し、設計および積算を行いました。計画した改修箇所は別紙資料1改修個所の優先付けの観点と、優先度別改修箇所の表中

の改修項目欄に記載の通りとなっております。設計に基づき必要な資機材を試算した結果、改修費用13億570万円が示され、緊急防災減災事業債および公共施設等適正管理推進事業債を活用することで、町財政の負担をできる限り減らし、令和4年度からの着工を目指しました。二つ目の・、大規模改修に要する費用をきっかけとして町財政への影響と施設の意義がクローズアップされた。多額の改修費用と実施設計委託料の金額に対し、改修是非の声が上がり、また町では施設の長寿命化と災害復旧のため行う大型事業による財政面への危惧、資材や人材の不足による不安定な要素、何よりも施設あり方自体の考え方の精査が不十分であることから、改修着工を見送り令和4年度において施設のあり方を検討することといたしました。三つ目の・、改修を先送りし、住民を交えて施設のあり方を検討することとした。検討の場として施設を利用等する方等と公募町民の計10名による下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を設置し、どのような運営が必要なのか、運営方針とどのような施設整備が必要なのか、改修計画を協議・取りまとめを行っております。四つ目、運営方針がまとめられたことで、何のために改修するのかが明確となった。委員の皆さんから今後の施設に対する思いや要望をたくさんいただくことで、将来に向かって目指す姿、理念と理念に向かい行っていく具体的な目標、方策により構成された運営方針を取りまとめることができました。五つ目、運営方針に基づく運営に必要な改修箇所はどこか、また運営に必要な改修をどのように計画していくかについて現在、検討を行っている。現在は運営方針に則った運営により、よりよい施設とするために必要な施設整備について検討しております。法などの基準適合や災害時の機能向上といった利用者の命を守る観点と、利便性の向上や多くの住民が集う場として利用者の活動の維持継続を図る観点により、真に必要な改修箇所を整理、優先付けすることで改修の実施を計画しようとしております。時期別改修計画案の作成、前回の会議資料とした年度別改修箇所案が上記改修を計画するにあたっての方針を前提に別紙資料1、改修箇所の優先付けの観点という優先度別改修箇所記載項目を振り分けるとともに単年度で完結することを想定し、各年度に当てはめていったものであり、あり方を検討する会議において、実施箇所の選択と実施年度の移動も協議しようと考えておりました。全改修項目を令和10年度までを行うものと誤解を招く表にしまい申し訳ありませんでした。今回の会議ではすぐに行う必要がある箇所を大規模改修と位置づけて計画することとし、優先度に応じて目標とする改修時期を設定することで時期別改修箇所を作成することとしたいと考えております。

事務局：

これまでのおさらいということでご説明させていただきましたが、ここまでのところで何か質疑等がございましたら、お願いいたします。

ここまではよろしいですかね。続けて事務局の方からご説明させていただきます。

事務局：

一つ目の丸にお戻りください。改修を計画するにあたっての方針ということで前回の会議の中で一度ご説明させていただきました。再掲ということでお願いいたします。改修を計画するにあたり、何を基準に振り分けていくかというのがこの方針となります。一つ目として現行法令上の基準への適合。二つ目、利用者の安全性の確保、避難所機能の向上を含みます。三つ目、利用者の活動の維持継続。利用可能箇所の確保をすること。四つ目、本計画においては同一箇所には2度手を入れず。利用休止期間を限定的にするという方針で振り分けをしております。それでは2ページをご覧ください。こちら前回の会議でご説明をいたしました優先度別改修箇所の表でございます。先ほどご説明した振り分けの基準となる方針をもとに本表の改修項目と改修課題項目を組み合わせグループ化したもの時期別改修箇所案の表となります。前回の会議では、時期の欄を年度と表記し誤解を招いてしまいましたので、時期という言葉に改めをさせていただいております。それでは1項目ずつご説明をいたします。まず一つ目のグループとして大ホールの天井に係る箇所となります。天井脱落防止対策工事、椅子改修工事、舞台設備改修工事、排煙設備改修工事など4つの工事となります。この先の説明で資料があちこちしていきます。申し訳ありませんがご了承をお願いいたします。まず大ホールの天井脱落防止対策工事についてでございます。現行法令の基準に適合していない吊天井を、鉄骨を新たに組んだ準構造天井することで既存不適合の特定天井を解消するとともに、音響効果を損なうことのないよう、形状復帰しようとするものでございます。一番下の行となりますホール内の壁と2ページをお開きください。2行目の舞台床は実施設計の仕様を変えずにクリーニングで済ませることとし、Bの機械設備改修工事でも実施設計通りの施工となります天井内のダクト等も天井改修に伴い撤去し、その後新品に復旧する。Cの電気設備改修工事の同様に、天井改修に伴い、天井設置の照明は撤去し、一部を除きLED化して復旧することとしております。3ページをご覧ください。大ホールの客席椅子改修工事でございます。前後の座席間の間隔が条例基準にあっておりません。そのことから適合させるために自動跳ね

上げ式に改造するとともに、布地をクリーニング、木部分の修繕を行うもので実施設計と同じ仕様を考えております。続いて、また設備改修工事についてですが、前回お配りをいたしました音響実施設計指摘事項等と書かれた資料も併せてご覧ください。こちらの資料につきましては舞台技術を担当しているスタッフからご説明を申し上げます。

事務局：

それでは私の方からご説明させていただきます。A4の資料は2種類ございますので、絵を見ながらご説明したいと思います。まず音響からご説明させていただきます。実施設計の概要といたしましては、老朽化による性能劣化の改善および運用面での機能操作性の改善を目的とした工事とするということになっています。機能条件といたしましては、主要機器はデジタル信号にて接続すること、主幹線はイーサネットケーブルで構築し、広帯域10Gbpsとありますが伝送を踏まえた種類および性能を備えること、イーサネットというのは一応規格なんですけれども大まかに言うとLANケーブルですとか、同軸ケーブル、同軸は主に映像とかを使うケーブルです。あと光ケーブル、この3種類があわせてイーサネットケーブルというものです。10Gbpsですけど、1秒間に10GBの要領の伝達ができるという意味です。続いて想定される用途に支障はない性能を備え、予備回線の敷設対応など安全性の高い設備となるように留意すること。舞台および客席に面した場所に設置する機器は、電気ファンや作動音などが公演に支障をきたさない範囲内であるようにすること。続いてシステム主電源操作は一括で行うことができ、入力系、出力系、制御機器それぞれに最適な順番・タイミングで電源の投入、切断ができること。続いてシステム主電源をはじめとする運用操作は操作室で行うことができ、電源の起動状態・EMG常態表示などを確認可能な仕組みとすること。EMGというのはエマージェンシー力として非常時とか緊急事態とか何かトラブルがあったときにランプなどが光って目視で確認ができるような仕組みとすること。このようなことは機能条件として入っております。続いてその下に全部ではないですが大まかなものを載せてあります。実施設計、基本的にはもう全て更新新しくするという、実施設計となっています。このホールはもう33年が経ちまして、ほとんどのものが今まだ何も更新されてない状況です。皆様のご家庭に33年前の電化製品とかありますでしょうか。多分ないと思います。今そうそういう状態ですので基本的に全て更新という実施設計となっております。一つずつ説明します。音響調整卓これがミキサ

一と呼ばれるものでこれも更新です。その下の録音再生機器、今現在は各ホールにCDプレイヤーが各1台ずつしかない状況です。最低でも2台ずつぐらいは欲しいと思っておりますので、今使ってるものはそのまま使って足りない分を新しく更新しようということです。次の入出力パッチ架というものなんですが、これは音響機器の入力、出力が全て入出力パッチ架というところに全部出ていまして、そこでケーブル繋ぐことによって、機械同士が繋がるという仕組みのものです。ちょっとこれ説明しても難しいかもしれないですがそういうものです。その下がパワーアンプですね。これももう古いということで基本的に更新です。次からスピーカーにあります、ちょっと場所の説明ということで絵の方にも大体こういうところについているスピーカーはこういうものですよというものです。プロセニアムスピーカー舞台の上には2ヶ所です。その下のサイドスピーカーはカラムスピーカーと呼ぶんですけども、舞台の左右にあります。なぜこんなにあるかというとな舞台の前の方で座ってるお客さんと後ろの方に座ってるお客さんそれぞれに向いてるスピーカーです。その次がステージフロントスピーカー、舞台の下にあり一番前の方のお客さん用のスピーカーです。その次の移動スピーカーというものは主に舞台の上にいる人が聞くためのもので舞台の両側から内側に向けて置くサイドスピーカーというものがあって、舞台上でダンスとか踊りなど大勢の人が一度に聞けるタイプのスピーカーでちょっとこの絵には載ってないんですけども、スタンドにかけて使うタイプのものが整理されているサイドスピーカーというものになります。もう一種類はバンドなんかで演奏する人の足元にあるスピーカー、移動型スピーカーに入るんですけども大まかにはこの2種類があります。移動型スピーカーで今、検討してるのは置いて使えるしスタンドに立てても、どっちでも使えるスピーカーもありますのでそういうものを考えております。1ページめくっていただいて、次の運営系のスピーカーです。これは楽屋ですとか帯ですとか天井に埋め込まれている、ここにもありますけどこの上にあるやつですね、こういうものことです。これも更新です。次がエアモニターマイクでこれはこの運営系のスピーカーから流す音を客席の後ろにマイクがあって、それを拾って、会場の外に今こういうことやってますっていうのを流すためのマイクです。これ今ちょっともうない状況なんで新規なってます。次のワイヤレスマイクはレンタル品を扱っておりますのでこれも新しくしたいと思っております。次はインカムです。これは我々が使っている指示連絡系統で使ってるものです。これはちょっと数に限りがあってギリギリの数しかないのでこれもちょっと追加したいなと思っております。

続いて電動三点吊装置です。吊りマイクというものですが、クラシックとか吹奏楽とか合唱とか生の音を取るためのマイク装置なんですけども一応実施設計は電動になってますが、ちょっと金額が高いので、1回外して手動をつけようかなと思ってます。本当は電動がいいんですけど、なかなか高額になるのでこれはもう再取り付けでいいと思ってます。あと次のコンセント盤というのが舞台ですとかいういろんなところにマイクの差込口ですとか、スピーカーの差込口とかあるんですけども、次のケーブル類にも繋がってくるんですけど、LANケーブルですとかそういったものを新しくつけたいということでもう端子が付いているものですかに更新したいと思います。次のそのケーブル類ですがスピーカーケーブルはもうスピーカー変えてしまうと今の規格に合わないのを新しく更新でなおかつデジタルケーブルも新しく新規で追加したいと思っております。最後の音響備品類ですがこれはいろいろあるんですけど、主なものとしてはアナログの信号をデジタルに変換するためのもの、その逆でデジタルで出たものをアナログに変換するものということが主なものです。基本的にはマイクとスピーカーというのがアナログなもので、その間はデジタルになるということです。大ホールの音響に関しては以上です。続いて機構の説明いたします。写真をご覧ください。これがリターンプーリー、舞台ホール機構の一番上のリターンプーリーというものになります。左側が全体図でちょっと最後はわかりにくいですが真ん中の下に丸がしてあって、それをアップで撮ったものが右側の写真です。右側の写真見ていただくとわかると思うんですけどその滑車の縁がもうベロベロに曲がっちゃってて、ちょっともう外れやすい状態になってしまってます。ちょっとこれも危険なのでこれは交換したいなと思っております。他の機構のものに関しては、基本的にそのマニラロープ、この今の写真に写ってますこのロープはマニラロープというものです。これとあとワイヤー系のものは時期が来れば交換、当然劣化してきますので非常に危なく大きな事故に繋がるものですのでこれは定期的に替えていきたいと思っております。その他は機構に関しては特にこちらとしての要望はそんなにございません。あと大ホールの機構の欄外に電動化っていうのも書いてあるんですけど、基本的に電動化するとモーターをまず増やさなきゃいけないということで置く場所もないなと思っておりますので基本的に吊りものの電動化は不要だと思っております。機構の説明に関しては以上です。

続いて小ホールの方は後ほどご説明しますのでもう1ページめくっていただくと大ホールの照明今日お渡しした資料をもう1枚めくった裏側ですね。番号が振ってあるもの、そちらもご覧になりながら説明を聞いていただければと思います。照明なんです

けども実施設計と指摘事項を間に案というものがあります。一応実施設計で出てきたものではなくてこの案の方がいいんじゃないかというか。コスト的とかいろいろ考えた結果この案でもいけるのではないかという案が真ん中の縦列です。一応大ホールの実施設計を大まかに説明しますと、元々ハロゲン球を使った舞台照明機材だったんですが、よく使うところに関してはLEDにしましょうということでその他のものはハロゲン球で新しいものにしましょうという更新。ただ、今さらハロゲン球のものを新しく替えてもしょうがないなんていうのもありましてちょっと違う案になっておりますのでちょっとそういうご説明させていただきます。全体の一番上からですけど、全体の指摘事項といたしまして、調光装置および負荷設備は長期使用に伴い、各構成部品の劣化が進んでいます。今後不具合が発生した際、故障箇所によっては交換部品の生産は既に終了しているため、修理対応はできない場合があります。装置の信頼性、安全性確保のためにも、計画的な機器の更新を検討ください。全体的な指摘事項ですが、証明に関するほとんどのものがもう直せないものばかりになってます。なので交換しなきゃいけないのは当然新しくしたいと思っております。これも主なものを載せてあります。上から2段目が調光版といってもこれが一番主な調光機なんですけど皆さんのご家庭にあるブレーカーに調光装置がついてるものと言ったらいいんですかね、暗くしたり明るくしたり調光できるブレーカーだと思ってください。実施設計では新しいものに更新となっているんですが、もう我々の案では更新しないようにしようとしています。次の調光制御ラックです。調光版の案の方のD/A変換器は必要って書いてあるんですがこれが調光制御用ラックだと思ってください。なので調光制御ラックは基本的に必要になります。案に書いてあるDMXっていうのは照明の調光を制御するための規格です。ちょっと説明難しいですが、今の舞台照明はDMXという規格で動いております。次の照明操作卓もこれはもう壊れても直せないよということなので基本的には更新。続いて簡易照明操作卓ですが、舞台袖に小さい照明操作卓を置いて簡単な催し物だったらもうそこでできますよというものです。これも新しく更新したいと思っております。次は舞台袖操作盤、これも更新となっています。これは舞台機構の操作盤と一緒に組み込まれているものです。これ照明操作卓が替わるとどうしても替えなきゃいけないものなのでこれもそれに合わせて更新したいと考えております。次からはちょっとアルファベットで書いてあるので絵を見ながらどこにある照明っていうのを見ていただければと思うんですが、まずFって書いてあるものですが、これフットライトといいまして、絵で説明しますと6番の舞台の前の方にある照明器具ですね。これ実施設計は更新

なってますが、もう多分使わないのでなくていいと思っております。ただコンセントだけは他で利用できますのでコンセントは残したいと思っております。次のWCは絵にはないですがウォールコンセントと言って普通の壁コンセントと思っていただければと思います。これは新設となっております。次は前、袖、奥、FCと呼ばれていますが前、袖、奥とは舞台の場所でFCがフロアコンセントといって5番のステージサイドスポットとかこういったもの、4番のフロアホリゾントを繋ぐためのコンセントの場所です。フロアコンセントというものです。これもプレート盤面のみ更新となっております。次のLHというのはロアホリゾントといいまして、これが4番ですね。舞台の背景に色をつける照明です。これはLED更新なってます。付いてる時間が非常に長いっていうのもあるのでこれをLEDに更新したいと思っております。次の1B2Bと書いてあるのは1番ですね、1 ボーダー、2 ボーダーと呼ばれているものです。これも付いてる時間が長いので基本的にはLED更新したいと思っております。LEDにすることによって、そのコンセントですとかジョイントボックスといったものを新しくしないといけなくなると思っています。ボーダーケーブルっていうのが、この舞台の上に1番2番3番とかが基本的に下まで降りてくる構造となっていて、どうしてもケーブルは動く場所になってます。なので1番2番3番のそのケーブルというのは更新をする予定になっております。次の1から3のSUSというものですがこれが2番のサスペンションライトと呼ばれるもの、1サス、2サス、3サスというものです。普段一番よく使われるものです。舞台の上から照らしたやつです。これが実施設計ではスポットライト更新になってるんですけども、元々ハロゲン球を使ってるんですけども、なおかつ新しいハロゲン球の灯体を更新しようとしてるので、だったらもう今あるものを使えばいいのではと思ってます。なのでハロゲンなら更新が必要なしと書かせていただきました。次ページが変わりまして、その1から3、サスペンションライトのフライダクトパネル面というものです。これは前回からもありましたがT型のコンセントをC型に替えるという更新です。なぜT型かっていう話は前回もしたと思いますが200ボルトと100ボルトはもうT型で今付いていて同じコネクタなのでそれだと事故起こるということで基本的に基本100ボルトと200ボルトのコネクタを分けましょうということになってます。それで今100ボルトの方をC型にしなければいけないということになってきてます。ここのボーダーケーブル、その上下する部分は更新になってます。続いてUHと書いてあるのはアッパーホリゾントと呼ばれるもので3番ですね、4番がロアホリゾントとして上側についてるのは3番のアッパーホリゾント、これもやっぱり背景の色をつけるためのもの、上



と下の両方ついているものです。なのでこれもLEDに更新したいと思ってます。続いてFRSというのですけども8番ですね。ちょっとここには1台だけギャラリーところにあるんですがフロントサイドスポットといいまして客席からは意外と見にくいんですけども、客席の両サイドから舞台を照らすための照明です。ここには1台しか書いてありませんがホールには10台～15台ずつあります。スポットライト更新となっておりますがハロゲン球で新しくするのであれば、更新の必要はないかなと思います。ここもT型なのでC型にするためのプレート更新は必要となってきます。続いてシールと書いてあるところですね。これシーリングライトとありますが7番ですかね。客席の上にあります。ここもスポットライト更新ですが、ハロゲン球の更新だったらしくなくてもいいかなと。ここもT型などでC型への更新が必要です。一番下の底板っていうのはこの絵にはないんですけど反響板を組んだ時の反響板に埋め込まれているライトです。これも反響板組んでいるときはほぼ一日中ついてる照明なのでLEDに更新がいいと思います。ページめくっていただいて、インターフェースですとかLEDに交換することによって必要なものは更新、増設っていう感じになります。続いてピンスポットですがこれも多少不具合はあるんですけどもあまり使用頻度は多くないので、このホールの場合はずっとあえずそのまま使おうと今は考えております。最後に客席の照明ですね。これも当然天井を剥がして天井を替えるのでLEDにしておこうと思ってます。ちょっと照明の説明なんですけどもちょっとわかりにくいんですが我々の考えている案としては今、全てのハロゲン球の照明機材です。それが150台～200台くらいあるんですけども、半分くらいをLEDにして残り半分をハロゲン球の今あるものを使おうという考え方です。そうすることによって調光盤、最初に大ホール照明の2列目にある調光盤というのを更新しないでLEDの灯体を半分ぐらいにして、それ用の調光盤というのは今、可搬型の小さいもの、当然LEDにすると電源が少なくて済むので、その可搬型の調光盤で賄いましょうと。で残りの半分のハロゲン球の調光盤は今のものを使いましょうという考え方です。もう調光盤の修理ができないので、LEDにした部分の調光盤で少し予備ができるという考え方です。ちょっとわかりにくいかもしれませんが、実際に最終的には全部LEDにしたいと思ってますがその途中の段階といたしますか、とりあえず半分くらいをLEDにしておいてから残りはまた何年後かにLEDにしようという考え方で提案を出しております。大ホールの方の舞台装置の説明としては以上となります。

事務局：

A3版の資料にお戻りください。ページは5ページとなります。排煙設備設備改修工事となります。実施設計の仕様では排煙口の改修を行うこととされておりますが、定期点検に必要な風量測定のための点検口がないことが指摘されていることから、この改善も併せて検討したいと思っております。まず一つ目のグループとしての説明は以上となります。それでは今、時期別改修箇所案の大ホール天井脱落防止対策工事から排煙設備工事までご説明をさせていただきました。こちらにつきましては法的に適合していないものの改修および大ホールの天井脱落防止対策工事を行う際に一緒にやってしまった方がよいというような逆にそうしないと再度天井を剥ぐという状況になってしまうというような工事がひとつの 카테고리 というような形でご説明をさせていただきました。冒頭にもご説明をさせていただきましたが、まずはこれから文化センターをずっと維持していくためにこの工事が必要なかどうかというところをまずは時期や金額はちょっと一旦置いて、これが必要なかどうかというようなところのご意見を皆様からお伺いをさせていただきたいと思っております。

委員：

今ずっと聞いてたんですけど、音響に関してはちょっと分からないところがあるんですが、まず客席の椅子の関係ですけど、先ほど現設計どおりというようなことであるということになれば全面的に撤去して取り替えるということ考えていいんでしょうか？椅子を張り替える、跳ね上げにするっていうのは現況のままでできるという話をしたんですが、今の説明では全面的に取り替えということでしょうか。

事務局：

設計上は今ある椅子を跳ね上げ式に改造をしてまた元に戻すということになります。1回取り外して改造を施してまたひじ掛けとか木の部分の補修をした後に戻すという案です。

委員：

例えば椅子を千鳥にして視界をよくしようという話もあったんだけど、撤去をするんだったら取らなければもうしょうがないんですけど、撤去するんだったら1回撤去して、椅子を並べ替えて人数を減らしてももうちょっと客席を空けるという方法だつて

あろうかと思うんですよ。撤去するなら新品にして椅子の位置を変える方法もある。そうするとどうなのかなとも思います。環境が良くなるのではないか。

事務局：

実施設計の段階では椅子を新しく変えるパターンと既存の椅子を改修するパターンで検討して新品に替えた方が金額が高いという判断をして基本的には今ある椅子を使う、今の椅子を使うけれどもその前後の座席間の通路幅を広げるために自動張り上げ式に改造をする。合わせて傷んでいるところを補修しつつ、布のところはクリーニングをするという案です。これが一番安いということで、素案を採用した経緯があります。確かに1回全部外して修理してまた元のところに戻すという形になりますので、その位置を変えて新品の椅子を設置し直すっていうことは可能だと思います。それに対して皆さんのご意見として椅子を新品に替えたいという声をいただくということで検討はしていけるのかなと思います。

委員：

検討の余地があるということですね。

事務局：

はい。

委員：

今、資料の3ページ見ると天井も合わせた金額の中に椅子の工事も入ってるんですが、今700の椅子を例えば600にするということで間隔が開けば数が減るわけですよ。そうそう金額的に、その今の数を元に戻すんじゃなくて600にして椅子を新しくしても費用的にそこまで変わらないかという検討もしなきゃいけないと思うんですね。そこら辺はちょっと検討の余地があるということなんでもうちょっと検討しなければいけない。人数を減らしていいかどうかという問題は皆さんの意見聞いていただければと思うんですが、そのことは結構です。次の話なんですけど、電気設備のことを細かく説明してもらったんですが、建物にくくり付け機器と備品という機器があります。例えばマイクとか、建物にくっつかないもので持って歩けるとか、今回その工事に関しては補助金や起債を使った場合、その備品まで補助対象にすると例えばそれを

なくしちゃったとか壊れたといったときにはちょっと難しい問題が起こるんじゃないかなと思うんです。だから備品扱いと建物設備扱いってこの分けた方がいいんじゃないのかなと私は思ったんですがそこはどうでしょうか。

事務局：

音響等の機器を更新する際の備品の扱ってことですよね。現状備品となっているものがあるのでその辺は整理しなきゃいけないと思います。

委員：

今説明あった例えば一つの例としてインカムがあるんですけど、インカムなんてのは備品ですから当然長く持たないいつか壊れるけど建物にくっついてるスピーカーとかはそんなに壊れないですよ。建物と一体化なんで、すぐに取り替えるわけにもいかないけどそういった細かい備品なんかは別に扱った方がいいんじゃないかなと思うんですけれども。

事務局：

そこについては検討してまいりたいと思います。

委員：

照明に関して、そのLEDとハロゲンを半分半分にするという話があって工事費を落とそうという考えで提案されたと思うんですけど、今言うようにLEDに関しては可搬式の調光設備、今のハロゲンに関しては固定のやつを使うということになれば配線自体も全部それに対応しなきゃいけないのですか。可搬式はリモコンか何かでやるわけですか。

事務局：

それはそのDMXっていう規格で繋げると動く機械です。DMXを各ポーター系ポーターですとか、サスペンションのところにDMXの回線を出して、可搬型の調光機は照明器具として吊るせるようになってるのでそこにどんどん繋いでいくという感じです。

委員：

一つの疑問としてね、全部LEDにした場合の金額とそれから半分ずつにした金額とそれから電気代も加味して電気料金の検討をして、どれが最適かっていう部分、例えばお金かかってここで全部LEDにしちゃった方がいいんじゃないかっていう選択もあるのではないかと思います。その検討っていうのはされてるんですよね。

事務局：

検討はしてますけれども、ちょっと今資料としてお出しできないんですがその辺の検討はしています。

委員：

その資料を出していただいて例えばどうするかっていう検討をこの会議でできるんですか。

事務局：

次回の会議でお話しさせていただければと思います。

委員：

このままいくとLEDとハロゲン半分ずつで決定って話になっちゃうのでそれが本当にいいのかどうかっていうのは検討したいのでぜひお願いします。

事務局：

次回、お示ししたいと思います。

事務局：

このカテゴリーの工事自体についてはいかがでしょうか？これはやるべきとか逆にやらなくてもよいのではというのがあればぜひご意見いただきたいと思います。

委員：

最優先の工事ですから当然やらなきゃいけないとは思ってますので天井は当然身の危険があるのでそれに絡むし音響設備、電気設備はやると、椅子に関しても一緒やっ

て全面撤去するって話になったんで、そこら辺はもうちょっと検討しなきゃいけないと思うんですけど、あと排煙設備、火災になったときに煙が出ていかない。出ていくんだけどその点検は我々がいつもやってるんですけど、風量が測れないっていう状況になってるんで、それもやらなければいけない。この項目の四つに関しては当然やるべきだろうと。椅子も避難に支障があるのでやるべきだろうというふうに思います。そのやり方をどうするかっていうのはちょっと先ほどの話になっちゃいますが。

事務局：

そのほかこちらのカテゴリーについてご意見ございますか。

委員：

今いろいろ音響とか照明とか具体的な説明はもちろん現場を知ってる人がよくわかってるし、その中で必要と言われたら必要だと思うし、我々の立場から具体的なことに対してこれはっていうことは言うの難しいなっていうのは思ったんですよね。お話を聞いて確かに30年前の機器を使ってるんでそこら辺はもちろん更新で問題ないと思うんですけど今ちょっと気になったのが我々がこの話を聞いてそれ何も言わなかったら承認したということになってしまうっていう、案なのか決定項なのかっていうことはありますが。項目に対して1個1個食いついていかないとただ聞いたことが我々承認したってことになってしまいうし、ここにいる意味もなくなってしまうのかなって思っでちょっと我々みたいな、私のような素人の立場からずっと、もうちょっと全体像じゃないけど抽象的な話があっってしまうけどでも今聞いた中で出た座席の話、これは単なる座席の話じゃなくてその文化センターのあり方にとっても大きく関わってくるんです。というのは、例えば今音響の方についていろいろこれはお金がかかるからっていうそういうスタンスでいろいろ見てくださって、それがお金かかるからいらないっていうふうになったと思うんですけど、椅子に関してはもちろん交換したらお金はかかると思います。でもお金をかけてでも、80年、100年残していきたいって建物にするんだったらそれは一つの文化センターのあり方として、大きな意味を持つ。ただ椅子がどうこうって話なんで安い方にするんだったらもちろんそこを直せばいいし、すごい素敵でずっと残してきた場所にしたいってなったら、正直椅子しかやることないと思うんですよね。なのでそこに拘るわけじゃないですけどすごくスタンスっていう意味ではとても大きなトピックになって予算がかかるけど、そこに付加価値をつけて

も、そこをやるのかっていうのはとても大事なところなのかなっていうのはすごく思いました。それとあと、ちょっと脱線してしまうのですがここでどれぐらいの予算があって、今まで再三あったと思うんですけどどれぐらい予算をかけていいのかって話。一番初めに受けたのが最低限必要と思われるというところでやったってことなんですけど例えば俯瞰して見ると例えばここ10年ぐらいの間に、他に町でどういう大きな事業がありうるかというときに、ここでこのホールに対してどんどんお金をかけてしまったときに、それがために、小学校なくなる中学校なくなるなどいろんな可能性あると思うんですけどそこに対しての責任も我々に責任はないかもしれないんですけど、この文化センター大事だよねって言うてもどこまでウェイトかけていいのかなっていうのは少し心配というかそこは理念とか方針を一つの武器にして通していくって話はこの前あったと思うんですけど、それがために他のいろいろ福祉とかいろんな問題あると思うんですけど、そういった中でやっぱりどれぐらいウェイトをかけていけばいいのか、我々はここにいていうのは少しでも金額を落とすためにいるのか、そうではないのかというところがちょっと責任を感じているところかなとは思いますが。一方で今ここで求められてるのはやっぱりこの大きな項目で何が必要か、ここにあるのはもちろん全部必要だと思って、一つはやっぱり椅子ってとこに対して大きなあの選択する場所だしいろんな可能性を持っている箇所だと思うのともう1個が多分これから話になってくるかもしれないけど、例えば災害時の復旧の防災面でいろいろやってくる時にすごいお金がかかる話って出てくると思うんですけど防災とても力入れてると思うんですけど災害時にホールはどれくらい意味のあるものになるのか多分ないですね。座席があるし、天井もあれだけ大きいし準構造にしても、ちょっと怖いのもあるかもしれないって言ったときに、多分今いるようなこういう場所の方が実際、災害時に一時的にここに避難するという意味はもっていると思うし、ホールだけじゃなくて、多分もう枠とかそういうのとか出てくると思うんですけど、どれぐらいの人数が避難できる施設かってときに、ここはさほどその災害時に一生懸命発電をする必要がないと判断されれば、そこに関連したものは削っていける可能性もあるしってことでホールだけじゃなくて少し全体に見ていくと落とせるところあるのかなと思います。全体としては今説明されたものというのはそれぞれまず特に初期にやるものなので一番必要な部分だというふうに感じました。

事務局：

今お話しいただいたことで、先にその金額ということ話ですけれども、そもそもとしてその金額ありきの範囲内で収めるための工事という考えはいないです。本当に必要な工事を行うのにいくら必要になるのかという考えです。ですが実際これだけの工事が必要、これだけの金額がかかかりますって言ったときに当然町の財政的に負担がかかってくるのは事実です。ですので、この場である程度の改修の計画が決まったとしても、例えばこの年度に対してこれだけの工事をやるとこの会議で取りまとめられたとして、実際予算化したときに申し訳ないですけどこれ半分でやらせてくださいっていう可能性は絶対あります。ですので順番としてこれを優先的にやっていくんだよっていうブロックを今お話ししてるんですが、そのブロックを1ヶ年でやる想定でありますけれども、2ヶ年でやるっていうことも当然あり得る話ですので、その辺はもしそうなった場合はご容赦くださいというふうに考えております。

事務局：

その他いかがですか。椅子のお話が2人の委員さんから出ましたので椅子についてですね、委員の皆様のご意見をお伺いできればと思っておりますがいかがでしょうか。

委員：

椅子について具体的な話になったらお話ししようかなと思ったんですけども、別の委員さんがもう再三前から言ってるように、せっかく改修工事をしたときに、明らかに改修があったなとわかる場所って椅子くらいしかやっぱりないと思うんですね。他のところだと緞帳なんかもあるんですが、今回みたいな緞帳は撤去って書いてあったので、やっぱり誰かが見てわかりやすく改装したなっていう部分があると、ものすごくあの使う町民が納得しやすいと思います。前回クラウドファンディングの話をしましたけれども、クラウドファンディングでなくても寄付でもいいですがある程度ちょっとお金を出して例えばそれを椅子の布の張替えに使ってみるとか。しかもその椅子も今みたいな色じゃなくてロイヤルブルーとかボルドーとかちょっと高級感がある、実際に高級かどうかはおいておいて一見、見た感じ高級な雰囲気になったなっていうのに変わると、お金出した人も座るたびにものすごい満足感を感じるんですよ。そうすると、例えばお孫さんがここ使ったよって言ったときにじいちゃんがお金出したからこんな綺麗になったよとか、自慢するとそうするとずっとその人たちってこのポー



ル使うたびに満足するんですね。それこそその町民の税金でやったと思うといろんな思いがあるんだけど、ちょっとお金を出してあげた結果がこれだったっていうと、誰も文句つけないんですね。なので、うまいこと予算を下げるのも大事なんだけどせっかく町民の税金を使うのであることを考えたら一気に満足度を上げてやるというのがまず一つだと思うんですよ。一番わかりやすいのは椅子の部分だと思うんですね。なのでぜひとも椅子とあとトイレですねだけは危険ではないけれども優先的にそこをちょっと変えてあげると、以前の研修で出たましたが言った何をやっても不満が出るっていうその部分もうだいぶ解消されると思うんです。もうみんな頑張ったおかげでこの排気のダクトがとか言われてもわかんないけど、明らかに入った瞬間においてな部分があると、それだけでみんな大喜びするので、ちょっと椅子に関してはそういう感じで見たくも明らかに変わったなっていうふうになる方がいいんじゃないかなと思ってます。

事務局：

ありがとうございました。他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

委員：

今、席数は700席だと思うんですけど、これ数は減らせる可能性はあるんですか、現状の利用料率からいうともうちょっと減らしてもいいのかなと私は思ってるんですが。

事務局：

減らす検討は可能です。

委員：

ということになれば椅子の間隔が開くということですよ。

事務局：

一つの椅子の間隔ということですか。

委員：

前後の間隔ですが階段があるので前後は無理ですかね。

事務局：

前後は難しいですが椅子の幅は広がります。

委員：

そうすると環境が変わり快適性が増すということになれば利用者もゆっくりできるんじゃないかなというふうに思うし、まずはやっぱり利用する人が満足感を得られるあのホールしなきゃいけないってのがありますから、当然今、狭い椅子窮屈に座ってもう長い長時間見てると疲れちゃうということになればちょっとゆったりした椅子を、数を減らしてもいいから作った方がいいんじゃないっていうふうに思います。金額はおいておいてではあります、当初そのままですら変えるだけで3,000万って聞いたもんですから。使える椅子を3,000万をかけて直すのってというのは私の考えだったんですけど、ずっとこの会議をやっている中で何か考えが変わってきまして今言うように椅子を外して改修するのが大前提なのかですが、新しく今風の椅子にした方がいいとは思っています。そうすれば色も今よりよくなって、見た目も変わってくるのでイメージも変わると思います。

委員：

今の皆さんのお話伺ってまして私共のホールの話が参考になればと思うんですけど、私共は平成29年の改修で椅子全部取り替えました。それで前も話させていただいた通り2,173あった席を1,978にしてるんですよ。それで県内で2,000席超えてたのって2ホールだけだったんですけど2,000席を切ってもお客さんからはそれについて不満というのはなくて、イベンターさんはね、1席でも多い方がお客さん入れられる方がいいんですけど、一般のお客さんからそれがないっていうのとそれからこれもこの前もさせてもらいましたけど、1席あたり4センチずつ広げたんですよ。それで今の話で階段席なものですから席幅の前後はいじれないんですけども、椅子の形状を変えることによって座った感じが広く感じがするようにできるんですよ。ふくらはぎが椅子に当たるところの角度を変えるだけで全然違うんです。あとは色も今までの朱色からちょっとシックなものにしたんですがやっぱり評判がいいのとそれからほとんどですね以

前はもう全面布でかぶっちゃってた椅子だったんですけどそれをやめたら天井の関係もあるんですけど、音がだいぶ良くなったんですよ。今までの会議の中で、もうその椅子に関しては新しくするともう全然ちょっと論外だっというのを思ってたもんですからあんまり言わなかったんですけど、まだ検討の余地があるのであれば、これは本当に前のトイレの話をさせてもらったんですけど、やっぱりお客さんは何が変わったのって天井を変えても基本的に今の天井と同じものを直貼りしただけで見たい目は全然変わらないんですよ。そうすると本当にそんなに金かけてどこ変わったのって言われてダクトですって話になってしまいます。お客さんがすごく気にしてるところで、まずは客席の環境それからトイレなんですよ。トイレはねもう本当にお客さんから一番苦情になるんですよ。よく和式は一つ残しましょうって言っただけど、そこに入ってるお客さんほとんど見ないですね。うちの場合は和式はもう一切なくなったんですけど、例えば公園なんかのトイレでそうは言っても、一つだけは和式を使う人たちもいるから残すんですけど行列できるのは様式なんですよ。和式の方に入る人ほぼいないみたいな状況なんで、とりあえずお客さんのことを考えるのであれば客席が一番、次がトイレ。そのところがもし本当に検討できるのであれば客席は真ん中のブロックだけ千鳥にしたんですよ。ここができた当時の40年前とかは何人入れるかっていうことが、まずは行政の方であって、長野県内に2000のホールを作るんだっというのがもう大命題としてあって、それでそれ以上キャパを落とせなかったのはあるんですけど、今もそうじゃないんですよ。だから本当にそのお客さんの環境をよくするのであれば椅子の間隔は今よりも広げるそれで前後の位置は変えられないが椅子の形状を変える。真ん中は千鳥にするとかっていうことを色々考えていくと、多分相当お客さんの満足度は上がるんじゃないかなっていうふうに思います。実際私もそれやって椅子の数だっって多分言われるのはイベンターさんだけかなって感じですよ。

委員：

椅子の話ってちょっと私もあんまり今まで議論に入ってこれなかったんで、予算的にあれかなと思ってたんですけど、今のお話聞いて、割と積極的な意見があって、だいぶ印象が変わるってところで費用対効果が大きいかなって思ってます。ちょっと昔の話ですが、東京にとあるホールがあり、そのホールは結構歴史があって私もよく行っていたんですけどあるとき改修をして一番印象的だったのがやっぱり椅

子だったんですよ。赤とか青とかちょっとデザイン性を持たせてモノトーンじゃなくて入った瞬間、雰囲気はガラッと変わったって印象を思い出している、そんな話をさせてもらったんですけど、張り替えを工夫するとか、費用を抑えるやり方はいくらでもあると思うんでやっぱり見える形で新しくなったなっていう雰囲気を町民の方にも印象を与えられるんじゃないかなってちょっと思いました。ちなみに椅子以外の床とかそういうところって改修する予定はありますか。

事務局：

床自体は1回すべて剥がして新たに貼り直します。

委員：

そこでも床の色次第ではだいぶ印象変わった感じになりますね。そういうところを合わせてやれば雰囲気も変わっていいんじゃないかなって思いました。

事務局：

ありがとうございました。町としての考えですが、なかなかそこにお金をかけるっていうことをあまり想定しなかったのでもできるだけ安くということ考えていました。ですが皆さんのそういったご意見をいただいて、嬉しくてありがたいと感じました。ぜひ椅子の改修については、皆さんの思いを叶えるような検討をしていきたいと思しますので現状椅子のクリーニングだけ座席も取ってまた跳ね上げ式にして付け直すだけっていう案ですが、それを新品に換えるまた数を減らしても座席位置を変えるというようなものを検討課題に加えてもよろしいでしょうか？

(委員了承)

事務局：

ありがとうございます。それではそれも含めて検討させていただきます。ちょっとこの会議の中でそこまで踏み込めるかどうかというのはちょっと時間がないのであれなんですけど仮に企画運営審議会が立ち上げられたときには、その中でお話をさせていただければと思いますのでそこで審議するというご理解ご勘弁をいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員了承)

事務局：

ありがとうございます。それではこのカテゴリーでそのほかご意見ある方いらっしゃいますか。

委員：

さっきの音響さんと照明さんのあたりだったんですけども、すごく細かいお話なんですけど、一昨年あたりから壊れてしまったミラーボールとか直す予定はありますか。あともう一つ、昔に比べてやっぱりモニターの画質があからさまに悪くなったのはそのケーブルを変えると綺麗になるんですかね。控え室に置いてあるモニターが昔より明らかに見えなくなっているんです。

事務局：

カメラとケーブルのせいです。すいませんミラーボールが直してないです。

委員：

できればいつかお願いします。

事務局：

はい。

委員：

舞台の方をちょっと聞きたいと思ってるんですけども、照明の関係でね、さっき半分LED半分ハロゲンって話でしたがそれって備品も含めての話ですよ。そうするとシーリングとかもコンセントまだTってやってらっしゃるんですよ。そこをCに替えるとその機材の方をCに交換するの職員でやられるってことなんですかね。すごい数になるなと思って。

事務局：

改修してる間はホールが閉まるのでその時に自分たちで行う予定です。

委員：

とりあえず予算の関係で半分LEDという話だったんですけど、そのLEDって具体的にはどの辺に配置される予定なんすか。

事務局：

細かい話をするスポットライトを半分ほどLEDにして、それをシーリングに合う。

委員：

シーリングもLEDにするんですね。

事務局：

はい。フロントが今750Wでものすごい暗いんですよ。シーリングで使ってたものをフロントに持ってきて、フロントで今使ってる750は廃棄してフロント1キロワットにして、あとサスの方もフレネルとかはLEDがいいかなと思ってます。

委員：

できれば本当に100%LEDが理想なわけですよ。

事務局：

ただ、機材的にも全部LEDって良くも悪くもというところもあるので。

委員：

確かに逆に全部LEDにしちゃっていいのかなっていうことも思うんです。

事務局：

そうですね。

委員

ハロゲンの良さもあるじゃないですか。ハロゲンじゃなきゃ駄目だと思うところもまだあると思うので、その電気料と相殺するってことになるのと、なるべくその小さい部分をハロゲンに残してってということになるんだらうと思うんですけど、そこも含め

て次回までに試算するということになるのでしょうか。とても膨大なエネルギーになるとおもうのでできるのかなと思います。あとハロゲン残すのも意味があって残すということですよ。

事務局：

そうですね。やはりハロゲンじゃないと駄目だよってところもあるので。

委員：

その辺とこはそのバランスを考えてというところですよ。

事務局：

そうです。どのぐらい残そうかっていうところです。

委員：

今のところ一応ざっくり半分ずつっていう感じです。

事務局：

そうすると今の調光盤が半分呼びに使えるということになります。

委員：

わかりました。あと音についてワイヤレスマイクがレンタルするということが、これ結構やばい話じゃないかと思ってるんですけどもう基本的にもう全部デジタルになっちゃうじゃないですか。そうすると、デジタルってやっぱりその基盤が壊れちゃうとそっくり交換になってしまう。性質のものなんで、そういったものこれからアナログがどれだけ残るか、うちの場合は全部デジタルになっちゃってるんですけどデジタルすると、基本的にはねもうある周期で常に更新していかなくちゃならないという状況が生まれるんですよ。それは多分町としても覚悟してある程度予算化しないと壊れましたからもう本当に一斉に動かなくなっちゃうんでデジタルというのは。それが非常にちょっと怖いっていうか兎に角やならなきゃいけないことは確かなんですけど。やるということはそういう覚悟が必要だと思います。

事務局：

最初に改修話が立ち上がって、じゃあどういう改修したいかと言われたときにやっぱりほぼデジタルにする、そうなると何年ごとにもう替えていかないといけないんですって話は当然、昔みたいに例えば治るとはいかないよということはお話をしております。

委員：

わかりました。あとさっきのお客様が感じるっていう改修としてはスピーカー替えればずいぶん変わるんで、そのスピーカーの選定はしっかり、本当にあのメインスピーカーが変わるとね、講演会一つとっても全く変わってくるので、そのところはもちろんご存知と思いますけど、さっき言った四つのことは最低限の話だと思ってるんで、これもどれを選択するか順番とかちょっとあまりなんて言ってる場合じゃなくてどれもすぐにやらなきゃいけないことだと思うんです。とにかく更新していくってことだと思うんですよ。なのでより慎重にそんな業者に言われるままじゃなくて、あのこっちの思いをどんどん出してもらってもいいなと思ってます。

事務局：

はい、ありがとうございます。

委員：

撤去から更新っていう音響設備とか電気設備の話ですけど、それはもう仕方がないと思うんですけど、その更新をするときのグレードがあると思うですよ。ここまではいらないよっていう。その辺の選定ってのはもう当然専門家と話をしながら、現場例えばここまでのレベルのものを入れましょうということで、そこで金額が抑えられることもありますよね。

事務局：

あります。

委員：

その辺はもう専門家に任せればいいということですね。



事務局：

基本的には専門家の人におまかせですけれどもその辺は話し合いをしつどこまで落とせるのかっていうところも当然考えなきゃいけないことだと思ってまので、話をしながら、まだ設計とかがって全然行ってないんですけど話をしていきたいと思います。そういった情報もまたこの会議は難しいですが、その審議会の中で情報はそれに限らず全てにおいてですけれども、改修の情報はお伝えしていければと思っています。

委員：

当然文化センターという意味合いから講演会で音が聞こえないよって問題ではないと思うんですね。その辺の椅子だとかは舞台はやってる人と話をしながら決めていくことなんですか、それとも更新するんで町の方でここまでっていうのを決めちゃう。その機器のレベルを。

事務局：

町単独では決めないと思います。業者当然いますので専門家も含めてということになります。

委員：

要は音響どこまで望むかっていう、演技をする人とか、演奏する人の希望があると思うんですね。私なんかは講演会がメインなので音が聞こえればいいんですけど、そこら辺のグレードはどこまでMAXで望むのか、70%や80%でいい言って話になるのか。そこら辺はちょっと私もわからないんで、ちょっと専門の方に聞いてください。

事務局：

音響のグレードといいますかその辺りについて実際に利用されている方でご意見いただける方いらっしゃいますか。

委員：

ちょっと私の立場から言うとオーケストラやっというゆるアコースティック的なものですが、基本的にマイクで拾って音を出すっていう演奏はしないんで、自然の

反響の時間がどれくらいあるかっていうところなんですよね。なので、今の音響入れるっていうのからするとちょっとそれはそっちの方の専門家の方に聞いてもらった方がよくて、生演奏の立場から言うと、基礎的な物理的にも音響の残響が残ってるっていうところが一番大事だと思っています。

委員：

音響機材は入札になりますよね。多分音響機材をどこにするかという話は全然一切そういう話を出してないですもんね。だから多分業者入札してそれで例えばA社だとかB社とかいろいろやってるとこあるじゃなですか。そういう人に入札させるためにどの程度のものを要求するかっていうところはこっちがある程度作っておかないいけないと思うのでまずはホールで実際やっている技術者の皆さんが、今の状況がどの程度のものを望むんだっていうベースを出してそれで多分入札にかけてやらなきゃ莫大の金額になるので、そうしないと駄目だと思うんですよね。だからその中で決まった業者にどこまで踏み込ませるかという話になってくるかなと思うんでホール側である程度のレベル、この辺まではっていうのを検討しておかないとっていうのはあると思いますし、そういうのはそれこそ長野県舞台技術者協会に相談してもいいかなと思います。いずれにしても館としての想いを一回作っておくといいかと思います。

事務局：

本当に機材ってピンからキリまであって、どの辺に標準を合わせるかですけど、現時点で我々が考えてるものとしては本当に中の中ぐらいのものを考えています。それぐらいしか言いようがないんですけど、当然入札にあたっては仕様書ができると思うんでそうすると必然的にこれって機材になってきちゃうと思うんですけど本当に中の中ぐらいを考えてます。

委員：

多分、日々やってらっしゃる中でここを使ってる皆さんが大体どのくらいのことを望んでるっていうのって打合せしたりすると分かりますもんね。それに対応できるレベルまでは持っていった方がいいなっていう感じですよ。

事務局：

その辺の仕様とかレベルとかってまだ全然想定していないのですが今言ったように仕様書を作りますので、ある程度この規模のものこのレベルのものっていうのは当然仕様書に入れないと入札かけられませんので、その辺は決まったところで打ち合わせをしつつ、また今、舞台技術者協会の方というお話をいただきましたのでそういった方、当然文化センターを利用していただいている団体さんにもいろいろレベル的な状況の様子とか希望内の中で得られるようなレベルというものを聞き取りとかしながら決めていきたいなと思います。

事務局：

参考までにですけど今はその13億っていう数字がありまして、その中には今の音響機器だとかを仮に想定したものの積み上げで13億の中に含まれてるわけですけども、今想定しているのはおおよそ中の中ぐらいのものを想定して13億になってるといったことでございます。

事務局：

それではこちらのカテゴリーについても、工事自体は必要ということで、よろしいでしょうか？工事は必要ですが椅子ですとかあとは照明ですとか音響については、またこちらの方で詰めさせていただいて、費用対効果のあたりも含めてこちらの方は再検討をさせていただくという形が必要ということでよろしいですかね。

(委員了承)

事務局：

はい、ありがとうございます。続いてのカテゴリーに入りたいところなんですけどちょっと時間が多分足りないと思いますので皆さんにお願いしたいというか、お聞きしたいことがあります。おそらく次回の10回目でも終わらない可能性があります。ということで11回目以降を設けていきたいと思うんですが、どうでしょうか？

(委員了承)

事務局：

すいません。ありがとうございます。とりあえず、次に10回目の会議ということで今度小ホールの天井以下のグループについてご意見等いただきたいと思います。そして11回目もしかしたら12回、13回目といくかもしれません、その辺申し訳ないですけどご容赦いただいて最後までこの検討をちゃんと続けられるようにしたいと思しますのでご協力をお願いいたします。

事務局：

それではただいま事務局の方からご説明させていただきましたが、小ホールの天井脱落防止工事以下のカテゴリーですね。こちらについてはまた次回以降にご説明をさせていただきます、議論をいただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。それでは本日も長時間にわたりありがとうございました。以上で第9回下諏訪総合文化センターのあり方を検討する会議を終了いたします。ありがとうございました。